

Before  
After

# 道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校  
道徳通信 第3号  
令和6年7月12日(金)  
発行者 校長 井浦 博史



台湾生活で気がついた当たり前のこと

1 学年職員

外国での生活は刺激的な日々でした。日本に住んでいて当たり前だと思っていたことは、日本独自の慣習や感覚であり、自分は日本人であるということに自覚しました。その一方で「日本は世界一住みやすい」「日本は先進国だ」と思い込んできた日本人である私は、台湾の住みやすさと、効率的な社会システムに驚嘆し、日本はもっと頑張るのではないか思うようになりました。台湾の人と話す言葉は中国語です。私は中国語が話せませんので、話したいことが台湾の人々に通じただけで感動し、買い物時にお店の人が言った代金を聞き取れるようになっただけで友人に自慢するほど嬉しかったことを覚えています。

そんな日々から帰国し最近気づいたことがあります。それは「通じることが当たり前だ」と考える自分についてです。日本での私は「わかってもらえる」ことが前提で行動し、わかってもらえないとストレスになることがあるようです。本来、「人は一人一人違う」のだから通じないことは当たり前なのかもしれません。台湾では思い通りにいかないことは、刺激的で楽しいことだったはずでした。「人は一人一人違う」その点にもう少し謙虚でいられれば、自分の人としての幅をもう少し広げられるような気がしています。

「音楽っていいよね♪」

2 学年職員

2020年2月27日。当時の首相は全国の学校に臨時休校を要請することを表明し、その後約3か月の休校が余儀なくされました。皆さんもまだ記憶に新しいのではないかと思います。その時、学校生活の中で真っ先に厳しい制限を受けた教科は“音楽”でした。まず、歌唱が許されなくなりました。目前に控えていた卒業式では、せっかく練習していた「あなたへ」が歌えませんでした。そして、楽器を演奏すると呼気が出るので、リコーダーなどの吹奏楽器も許されなくなりました。

コロナ禍の3年間、歌えなかった卒業式が2回、合唱祭ができなかった年も2回、中止になったコンクール1回。

「音楽は軽視されている。こんなにも人の心を救うものはないのに。」何度も思いました。初めて教員を辞めたいと思ったのも、コロナ禍でした。

ただ、そんな荒んだ私を救ってくれたのも“音楽”でした。登校の音楽から始まり、チャイム、給食と掃除、下校の音楽。お店に入ればBGMが流れ、テレビのCMでも音楽は流れています。合唱祭が全校開催できた去年、私は感動で涙が溢れました。マスクをしないで歌った卒業式は、圧巻の光景でした。私たちが気にも留めていないところで、音楽は流れ続けているのです。

皆さんにとって“音楽”はどのような存在ですか。勉強や部活動で苦しい時に、自分を奮い立たせてくれたり、失恋した時に寄り添ってくれたり…。生活に根付いていて、思い出と隣り合わせにあるのが“音楽”です。

ぜひ、いつもよりちょっとだけ多く、世の中の音楽に耳を傾けてみてください。



太平中学校に来て以来、毎日、皆さんの立派な姿に心を打たれています。始業式の静粛な整列、会長の右手を上げる合図への反応、原稿を見ずに自分の言葉で語る抱負、生徒会執行部たちの堂々とした立ち居振る舞い。そして、部活動では後輩を指導し励ます姿。剣道部の練習においても部長は的確な指示でチームをまとめ、自ら率先して審判や運営に尽力しています。試合でも最後まで懸命に挑み、どんな結果であっても、男女関係なく仲間の応援に駆け寄り、声をかけ励ます先輩の姿は、まさに「格好いい」という言葉がぴったりです。きっとどの部活動でも、そんな先輩方の姿があったのではないのでしょうか。科学部の卒業生にも、皆が大好きな伝説の先輩がいるようです。

話は変わりますが、先日3年生の道德の授業で「将来、どのような大人になりたいですか？」と尋ねたところ、「格好いい大人になりたい」「こんな大人になりたいって思われる大人になりたい」と答えてくれた生徒たちがいました。授業の感想には、「自分のしたいことをして、失敗をしてその上で学んだ方が人生として何か大切なものを学べると思ったので、僕は失敗を続けていこうと思う」と書いてくれた生徒もいました。

私は、格好つけようとする人は真の格好いい人ではないと思います。真の格好よさは、自然体で周囲に良い影響を与えることにあると思います。これからの学校行事や普段の生活の中で、皆さん一人ひとりが持つ個性や能力を存分に発揮し、周りの人を笑顔にしたり、勇気づけたりするような「格好いい姿」を見せてくれることを期待しています。

そして、後輩たちは先輩方の背中を見て、成長していくのだらうと思うと、とても楽しみです。私も皆さんから刺激を受け、より良い自分になっていきたいです。



## ヒーローに本当に必要な力は、..

にじいろ学級担当職員

私は学生の頃から、漫画をよく観ています。最近のイチオシの漫画は、「僕のヒーローアカデミア」(集英社)です。簡単に説明すると、「個性」という特殊能力を使って戦う物語です。その「個性」は、ひとり一人違い、炎を出したり、宙に浮いたり、動物に似た力であったりと様々です。

いわゆる、バトル漫画なので、ヒーローは平和のために、敵を倒そうとします。敵たちも、「これが正しいことだ！」と自分自身が信じたことに従って戦っています。

つまり、ヒーローも敵も、お互いに「正しい」と思うことが違うから戦いになっています。ここでいう「正しさ」を少し置き換えて考えてみると、この漫画のヒーローと敵は、それぞれ「自分の考え」をぶつけあっていると見ることができます。

当然、「自分の考え」は一人一人違います。そのため、自分の考えと違うことが起きると、人はもどかしくなり、納得がいかず、時には他人と衝突してしまうこともあるかもしれません。「自分の考え」をもつことはとても大切です。でも、だからこそ、「周りの人の考え」に耳を傾けることも大切です。なぜなら、あなたが自分の考えに強い思いを抱いているように、周りの人も、それぞれ強い思いを抱いているからです。

主人公・緑谷出久の真の強さは、相手の思いを感じながらも、自分の思いをまっすぐ伝えられる、そんな人間性にあると私は感じます。この漫画みたいに、炎を出す個性は現実では使えませんが、「自分の考え」と「周りの人の考え」をどちらも大切にできる人が、いろんな人に認められる素敵なヒーローになれると私は思います。

